

報道畑 45 年「事実」に切り込む

ジャーナリストの金平茂紀さんが、表題について語っている。朝日新聞 20 日朝刊に掲載のインタビューを抜粋して紹介したい。

教団(旧統一教会)の会見に参加しましたが、若い記者が質問の最後に「教えてください」と言うんです。会見する側と問いただく側は対等でなければいけない。僕らは市民の知る権利を代行しているわけですから。

教団はフリーランスの記者を排除し、会見の進行もおかしかった。質問で僕は最初それを言いました。社会的な関心がある問題なんだから、相手の土俵を簡単に受け入れるのはよくない。次に「被害を被った方々に、なぜわびないんですか」と言いました。そうすると向こうも気色ばんで、空気が変わった。相手がちゃんと答えなかったら「なんで答えないんですか」とやり取りしないと。「お前は話を聞くだけでいい」と思われてはだめ。記者会見はそういう部分がめちゃめちゃ大事なんです。

大物の政治家や官僚、スポーツ選手にへこへこし、ネタをもらって言いなりになる記者も残念ながらいます。政治取材の現場では、安倍晋三政権、菅義偉政権の間、その傾向が強まっていた。積極的に安倍さんにすり寄っていった記者がいっぱいいました。懐に入らないと分からないことだってある。でも一体化することとは違う。

押し返す力があるとなれば、メインストリームのメディアではなく、在野ではないか。ジャーナリストの鈴木エイト氏は、みんなが忘れていた間も体を張って旧統一教会の問題を追い続けてきた。そういう人が次の力になっていくのではないかと思います。

45 年間、報道ばかりの「報道バカ」でした。「筑紫哲也 NEWS23」では編集長として 8 年半、筑紫さんと一緒に仕事をしました。恩師です。たくさんのことを学びました。「力の強いもの、権力の監視」「少数派であることを恐れない」「多様な意見を提示することによって自由の気風を保つ」……。今はそれと正反対のことが起きている。悔しく残念に思います。

ネットの情報の瞬発力や拡散力にはかないません。でも中身のないものはやっぱり淘汰されていく。テレビや新聞に代わる選択肢にはならないと思います。事実をとってくる作業は、そんな甘いものじゃない。その代わりに、自分たちが間違いを犯したら徹底的に検証しなければならない。「NEWS23」の編集長時代、TBS が坂本堤弁護士への取材ビデオをオウム真理教幹部に放送前に見せた事件がありました。検証番組を立ち上げて徹底的に検査しました。

福島第 1 原発事故に関わる「吉田調書」記事の取り消しなどがあつた朝日新聞も、今年テレビ朝日の玉川徹さんが謹慎処分を受けた問題も、なぜそうなったか調べ、説明責任を果たすことが大事。一方で、世論の批判への過剰なおびえは、メディアの可能性を殺すことにもなる。

(2022 年 12 月 23 日)